

重要文化財《支那禅刹図式（寺伝五山十刹図）》大乗寺蔵
—「一曹洞宗第二の本山— 加賀大乗寺の文化財」より—

- 橋本雅邦の襖絵【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 一曹洞宗第二の本山— 加賀大乗寺の文化財【古美術】
- 優品選【近現代工芸】
- 近代版画
- 優品選【近現代絵画・彫刻】
- 花鳥画の世界Ⅰ 一雪舟筆《四季花鳥図》を中心に—
【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 古美術優品選【古美術】
 - 学芸室の人々
 - 3月の行事予定
 - 3月の企画展示室
 - 石川県立美術館友の会 会員募集！
 - アラカルト ただいま展示中

橋本雅邦の襖絵

2月25日(金)～3月24日(木) 会期中無休

東京駒場公園内に今も建つ旧前田家洋館と和館はご存知でしょうか。洋館は十六代当主前田利為(一八八五～一九四二)の居宅として昭和四(五年)一九二九(三〇)に建てられたもので、イギリスの貴族の館カントリーハウスを模した二階建てです。表面にひっかいた傷をつけたようなスクラッチタイルが特徴で、隣接する前田育徳会の建物と共通しています。ヨーロッパ滞在の経験もあった利為の生活様式は既に洋風で、洋館の二階を住居として、一階は来客を迎えるスペースとして利用していました。その洋館一階から長い廊下でつながっていたのが、和館です。和館は、外国からの賓客を迎えるために建てられた二階建ての建物で、楼閣のような見晴らしのよい造りとなっています。一階は客間と御次之間をあわせ

ると四十畳ほどの続きの間で、廊下をはさんで美しい庭園を眺めることができます。そして、かつてこの二間の周囲を囲んでいたのが、橋本雅邦の襖絵です。橋本雅邦の襖絵は、元々明治末に建てられた本郷邸の和館で用いられていましたが、駒場にあった東京帝国大学と土地建物を等価交換することになり、前田邸は駒場に移転新築したのです。駒場では洋館はルネッサンス様式から一転し、和館の規模は小さくなりましたが、雅邦の襖絵は、そのまま用いられました。駒場邸和館の杉戸絵は、現在も雅邦のもので、旧前田家洋館と和館は見学することも可能なので、雅邦の襖絵と前田家の近代の歴史ともに振り返ってみてください。

古美術(第2展示室)
一曹洞宗第二の本山一
加賀大乘寺の文化財

2月25日(金)～3月24日(木) 会期中無休

金沢市にある大乘寺は、曹洞宗が永平寺以外の地に開いた最初の寺院であることから、曹洞宗第二の本山と称される古刹です。大乘寺に伝わる貴重な文化財は一括して当館に寄託されており、今回はその内、重要文化財や県指定文化財を含む十六点を展示します。

本稿では、初公開となる《苦楽両界曼荼羅》をご紹介します。本作は画面中央の「心」字より上部に仏の世界、それを囲む十の区画に説法図、下部に地獄の様子を描きます。画面中央に「心」字を配するのは、熊野観心十界曼荼羅に見られる特徴ですが、その構成は前述の通り全く異なります。この形式の仏画は秋田県内で数例報告されるのみで、本作も秋田県横手市

の正平寺で制作されました。しかし、大乘寺に伝来した由来は、現在のところ分かっていません。

正平寺といえば、加賀本多家初代当主・本多政重の兄、本多正純ゆかりの寺として知られています。宇都宮城主であった正純は、後に「宇都宮釣天井事件」と呼ばれる事件により、寛永元年(一六二四年)四月に佐竹義宣に召し預けられ、横手に配流されてしまいます。その後、正純および嫡男・正勝はこの地で没し、正平寺にて弔われました。本多家の菩提寺である大乘寺と初代当主の兄・正純ゆかりの正平寺。本作の制作年代と正純の生きた時代は異なりますが、本多家というつながりによって伝わったのかもしれない。

近代版画

2月25日(金)～3月24日(木) 会期中無休

江戸時代、絵画芸術としても高い水準に達した浮世絵は、明治に入り新しい印刷技術との競合で衰退していきます。そうした中であつて、小林清親など浮世絵の伝統に新しい西洋の表現技法を取り入れ、絵画的にも優れた作品を創造した絵師たちがいたことは、忘れることができません。

浮世絵版画は版元主導のもと、絵師、彫師、刷師三者の分業によって作られました。ところが、明治以降西洋に学んだ画家たちは、自己の内的世界を独自の表現方法で、自らの手によって描き上げることが芸術であるという考えに至り、分業を否定します。そして明治四十年代に自分で描き、自分で彫り、自分で摺る、いわゆる「自画・自刻・自摺」による創作版画を、石井柏亭や山本鼎がおこし、版画の近代化を図るので

した。

それに対して、新しい時代の版画を別の観点から求めた版元がありました。浮世絵商の渡邊庄三郎は、複製の仕事と浮世絵の研究を通じて良質の古版画と向き合う中、時代にふさわしい版画の創造を求めました。渡辺の願望は橋口五葉との出会いで実現し、その後、伊東深水、川瀬巴水らとともに美人画・役者絵・風景画という浮世絵の主要なジャンルを揃えることとなります。画面に様々な表情を演出し、版表現の豊かさを画家それぞれの個性とともに見せる作品を次々と世に送りました。今回の展示では、絵画的にも技術的にも、浮世絵版画という木版画特有の日本の伝統美の上に、大正・昭和の近代美が加わっている、これら「新版画」の作品を中心にご覧いただきます。



川瀬巴水〈厳島の雪〉

優品選

2月25日(金)～3月24日(木) 会期中無休

今年度最後の近現代工芸・優品選では、冬から春に向けてみられる風景、自然の花、凜とした雰囲気などを中心にご覧いただきます。

壁面ケースでは、冬を感じるものから春への流れを、染織パネルと着物というそれぞれの形態での表現を楽しめる展示となります。作品は染織パネルでは堀友三郎《シャンポール》や成竹登茂男《凍る》ほか、着物では羽田登喜男《友禅白地洋蘭花車文振袖「幸のおとずれ」》や白坂幸蔵《友禅訪問着「春を待つ」》ほかを。パネル、着物と形態からくる感じかたやモチーフの配置の違いや、それぞれに持っている迫力のあるデザインの美しさをお楽しみいただけます。

また、移動ケースは北大路魯山人《色絵椿花図鉢》や中村研一《八重椿図皿》ほか、陶磁では椿の表現いろいろをそろえてみました。春に向かう頃に咲く椿の色、暖かさ、強さなど、同じ椿でもそれぞれの表現の違いをお楽しみいただけます。漆工では初代笹田月暁《蒔絵南天硯箱》や新村撰吉《梅花文蒔絵箱》ほかを、人形では井口十糸《木苾桐塑人形「野の小径」》《木苾桐塑人形「雪ん子」》の冬の子どもたちを表現した二点を展示します。かわいらしい表情をじっくりとご覧いただけます。このほか今年度展示機会が少なかったガラス作品も展示いたしますので、あわせてお楽しみください。



白坂幸蔵〈友禅訪問着「春の訪れ」〉

前田育徳会尊經閣文庫分館

花鳥画の世界 I

—雪舟筆《四季花鳥図》を中心に—

3月29日(火)~4月18日(月) 会期中無休

近現代絵画・彫刻(第3・4展示室)

優品選

2月25日(金)~3月24日(木) 会期中無休

今年度を締めくくる、近現代美術の優品選を紹介
します。

日本画分野では、春の訪れに合わせて「早春賦」の
テーマで展示します。曲子光男《開春》は、まだ固いつ
ほみをつけた梅の枝に、わずか数輪が開花した様子
を描きます。背景の彩色から無数のつぼみの存在を
感じます。一月の小特集「没後十年 曲子光男」では、
多くの方から賛嘆の声が寄せられました。本作は
機会を待って展示しなかった一点です。この機会に
ご堪能ください。「春は名のみ風の寒さや」そんな
一節が口を衝く展示室です。

油彩分野では、冬から春への移ろいを感じる作品
を展示します。奥田憲三《虹のかかる街》は、郊外から
望む金沢の町並みを描いています。空は薄暗く、田畑

前田育徳会展示室では「花鳥画の世界—雪舟筆《四
季花鳥図》を中心に—」を開催します。四月十八日ま
でをⅠ期、四月二十四日から五月二十二日までをⅡ
期として、作品の一部を場面替え、または展示替えし
ますが、前田育徳会所蔵の重要文化財、伝雪舟筆《花
鳥図屏風》は全期間展示しますので、お見逃しなくご
鑑賞ください。

雪舟といえは、「山水画」とイメージされることか
ら、本作品のような「著色花鳥画」には疑問が持たれ
た時期もありますが、「雪舟」の落款を持つ本作をは
じめ、中国の絵画に影響を受けた「伝雪舟筆の花鳥図
屏風」は複数確認でき、現在では「雪舟は花鳥図も手
がけた」が定説となっています。特に有名なのが、京
都国立博物館(旧小坂家)本と東京国立博物館(旧品

は一面の雪が覆う北陸の冬景色ですが、空の虹が待
ち望む春と希望を表しています。新保甚平《水光る》
は、田んぼにたまった雪解け水がキラキラと光を反
射する様子により、春の訪れを伝えていきます。美術館
で少し早い春を感じてみませんか。

彫刻分野からは、北川薫の石彫作品を紹介しま
す。北川は石工の徒弟修行ののち、さらに彫刻の道にあ
こがれ上京、石彫家の八柳五兵衛・恭次兄弟の門に
入ります。戦後は松村外次郎にも師事し、二紀展で活
躍しました。今回は、当館で所蔵する《石鈴》《作品》
《比翼》を展示します。大理石や凝灰岩の色彩豊かな
表情をお楽しみください。当館裏の「美術の小径」に
も北川の野外作品がありますので、あわせてご覧
ください。

川家)本と前田育徳会本の三本です。

それぞれ比較をすると、右隻の鶴のうち、大きく描
かれた鶴は育徳会本と東博本の図様が近く、少し小
さく描かれた鶴は京博本と東博本が酷似していま
す。樹木の間を竹が幾本も生える様子は、育徳会本の
左隻と東博本の右隻に共通し、遠方に冬山を望みな
がら雁が舞い降りる光景も、育徳会本と東博本は似
ています。今日、雪舟筆とされるのは京博本ですが、
花鳥画成立の背景や、その後の弟子や狩野派による
花鳥画成立への影響をうかがい知る上で、いずれも
貴重な作品です。

昨年、東京国立博物館をたずねたところ、ちょうど
東博本が展示されていました。比較しながら「似て非な
るもの」に気づくのも、鑑賞の楽しみ方のひとつです。



新保甚平《水光る》

《四季花鳥図屏風(右隻)》伝雪舟

第8・9展示室

第27回 北陸国展

2月25日(金)～3月1日(火) 会期中無休

◇入場無料

◇後援／北國新聞社、テレビ金沢

◇連絡先／横江昌人(北陸国展事務局)

能美市秋常町二1511

北陸国展は北陸在住の国展出品者で構成され、今年で二十七回展となりました。
国画会(国展)は昨年九十五回を迎え、毎年春に国立新美術館で開催される歴史ある公募団体です。草創期の絵画部には梅原龍三郎、香月泰男らが、写真部には野島康三、木村伊兵衛らがいました。
北陸国展での成果が毎年、国展での受賞者輩出につながっています。今回は絵画部十七名、写真部十七名が力作、大作を発表します。今回は北陸国展出品者による第九十五回国展受賞作なども展示いたします。是非ご高覧下さいませようお願い申し上げます。

古美術(第2展示室)

古美術優品選

3月29日(火)～4月18日(月) 会期中無休

第2展示室で開催する「古美術優品選」では、当館所蔵品の代表であるふたつの久隅守景の《四季耕作図》を例に、日本由来の「和」と中国由来の「漢」を比較しながら作品を紹介します。

『四季耕作図』は元来中国由来の画題で、養蚕機織りの画題と一対として、権力者に農民の苦勞を知らしめるために制作されました。やがて耕作図のみ描かれるようになり、その画題が日本へ渡ると、日本の伝統的四季絵と結びついて発展します。特にその画題を得意としたのが、久隅守景でした。

守景の《四季耕作図》は複数確認されていますが、中国由来の画題であることをうかがわせる中国様式と同図と、日本の風景の中へと進化した同図の双方が確認されています。石川県指定文化財の《四季耕

第7～9展示室

第30回 北國水墨画展

3月4日(金)～8日(火) 会期中無休

◇入場料／一般・高大生…500円(400円)
◇連絡先／金沢市南町2番1号
石川県水墨画連盟
(北國新聞社事業局内)

電話…076-1260-3581

石川県内の水墨画愛好団体を網羅した統一展です。県水墨画界の結束を図るとともに、愛好者拡大を目指すねらいの展覧会で、作品は広く愛好者から公募して審査します。入選、入賞作に委嘱作品も併せて展示し、水墨画の魅力を伝えるものです。

作図」屏風は、描かれる人物など中国風で、季節は左隻から右隻へ流れています。一方、重要文化財の《四季耕作図》屏風は、季節は同じく左から右へと変化しますが、人々の姿は日本風で、鷹狩の一行や訪れた役人の様子など、耕作以外の光景も描かれます。『四季耕作図』という共通したテーマでありながら、「和」と「漢」異なる手法で描かれた二点を比較してご鑑賞ください。

本特集ではその他、陶磁器では「和」として、尾形乾山の《染付錆絵杜若茶碗》、「漢」として《青磁鳳凰耳付杓立》を、漆工作品からは中国の《存星梅竹双鳥図盆》(石川県指定文化財)、中国由来の画題を元に江戸時代の詩絵師が制作した《詩絵虎溪三笑図織部棚》(県指定文化財)などを紹介します。



重要文化財《四季耕作図(左隻)》久隅守景

学芸室の人々

谷岡 彩(学芸第一課学芸員)

昨年の四月から油彩画を担当し、館内外の表示の作成などにあたっています。みなさまに興味深い展示、何度も訪れたい館と感じていただけるよう、励んでいます。

関西出身の私にとって、金沢での暮らしは驚きの連続で、毎日が新鮮です。特においしいお魚やお野菜には感動し、料理をするのが楽しみになりました。自然も美しく、お休みの日には、犀川沿いや公園をジョギングして、リフレッシュしています。楽しく明るくがんばります！よろしくお願いたします。

第7展示室

第45回伝統九谷焼工芸展

3月11日(金)～21日(月・祝) 会期中無休

昭和五十一年に認定された石川県指定無形文化財保持団体九谷焼技術保存会が、技術保存・発展向上を図るための事業として毎年行っている公募展で、入選作並びに九谷焼技術保存会会員の作品を一堂のものに展示します。

◇入場料／一般…350円(280円)

大学生…280円(220円)

高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金。当館友の会会員は、会員証の提示により団体料金になります。

◇連絡先／能美市泉台町南13番地 石川県九谷会館内

九谷焼技術保存会事務局

電話…076-1157-0125

第8・9展示室

'21 玄土社書展

3月19日(土)～21日(月・祝) 会期中無休

玄土社の二〇二二年中の歩みをまとめた創作(抽象)四十六点、古典臨摹(写し)十四点をお目にかけます。創作は自由にチャレンジ精神をもって、臨摹は古典に忠実に。この玄土社の基本姿勢はかわることなく今展で四十九回となります。表意文字である漢字、その古典の模写復元を試みることで本当の歴史が見えてきます。また一方では揺れ動き進化する抽象表現の愉しさ。どちらも私たちにとって欠くことができないワークです。独自の活動をする在野のグループ玄土社ならではの古典と新しい表現の世界をご覧いただける好機会です。

◇入場無料

◇連絡先／玄土社本部(表)金沢市本多町1-7-15

電話…076-1263-3730

3月の行事予定

■土曜講座

13時30分～15時

美術館講義室

無料

12日(土)

「日本画名作秘話」

学芸第一課長

前多

武志

※日時や定員等を変更、または中止する場合がございます。

最新情報は当館公式ウェブサイトをご確認ください。

ご参加にあたってのお願い

- ① 来館時にサーマルカメラによる体温チェックを行います。発熱等体調に不安がある方の参加はご遠慮ください。
- ② マスクの着用、手指消毒の徹底をお願いします。
- ③ 参加時は受付名簿に氏名と連絡先をご記載ください。
- ④ 会場内では会話を極力ご遠慮ください。

令和4年度

石川県立美術館友の会 会員募集！

令和4年度の友の会入会受付を3月1日(火)から開始します！
現会員で継続を希望される方も、改めてお申し込み下さい。

1. 会費 2,000円
2. 受付期間 3月1日(火)より開始。
3. 入会手続 次のA、Bいずれかの方法。

A 直接来館してのお申込み(総合案内にお声がけください)

- ・会員証：その場で発行。
- ・申込方法：会費(現金)とともに入会申込書に所定事項を記入して申込。
- ・受付時間：午前9時30分～午後5時30分(3月25日(金)～28日(月)を除く)

B 郵便局からのお申込み

- ・会員証：3月末から美術館だよりと共に郵送。
- ・申込方法：同封の払込取扱票に所定事項を記入し、最寄りの郵便局(ゆうちょ銀行)窓口にて支払い。払込手数料は申込者負担。
- ・注意事項：郵便局で払込した方は、同封の申込書を郵送する必要はありません。払込取扱票の受領証は、会員証が送付されるまで大切に保管してください。

※郵便局(ゆうちょ銀行)備え付けの振替用紙をご使用の場合、口座番号・加入者・通信欄に以下の事項を記入して支払い。

- ・郵便振替口座：00700-7-46490
- ・加入者名：石川県立美術館友の会
- ・通信欄記入事項：年齢、性別、会員の区別(継続・新規・元)、職業、継続会員の方は現在の会員番号

4. その他

- ・会員証の有効期限：令和4年4月1日～令和5年3月31日
- ・会員証の対象：記名者本人のみ(ご家族の方との連名受付はありません)。

※一度納入された会費の返金はできません。

※会員証紛失による再発行はできません。

会員の特典

- コレクション展に無料で入場可(要会員証・会員本人のみ)
- 企画展入場券進呈(主催企画展に2回無料で入場可)
- 企画展の開会式(開会式がない場合は初日)にご招待
※感染症の状況により中止となる場合があります。
- 入館料の割引(要会員証)
 - ①同伴者2名まで：コレクション展、企画展観覧料を割引。
 - ②会員本人のみ：石川県立歴史博物館、石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館、脇田美術館の各館主催展覧会を割引。
- 当館主催諸行事への参加
- 館内カフェ「ル ミュゼ ドウ アッシュ KANAZAWA」にてドリンクの割引(要会員証、平日のみ)
- 最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより(本誌)』を毎月郵送

【令和3年度会員の方への限定特典】 企画展入場券プラス2枚進呈

新型コロナウイルスの蔓延に伴い、友の会会員の皆様には例年通りのサービスが提供できず申し訳ございませんでした。

つきましては、今年度会員の方で令和4年度も続けてご入会いただく方には、主催企画展入場券を追加で2枚進呈いたします。

みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

なお、ご来館での申し込みの際は、必ず令和3年度友の会会員証をご持参ください！

《早春潺潺盆》 そうしゅんせんせんぼん

縦48.9cm 横48.9cm 高7.3cm
昭和54年(1979)

小松芳光 こまつほうこう

明治36年(1903)～平成5年(1993)



作品タイトルにある「潺潺(せんせん)」とは、水がさらさらと流れる清らかな様子を意味します。この場面は作者が訪れた富山県城端町の高清水山三納国にある縄が池に群生する水芭蕉をモチーフにしています。水芭蕉の蔭からは紅椿が見え、水芭蕉と椿と水の三つが共鳴する早春の美しさに感動されたのが、この作品が出来るきっかけとなりました。

水面となる背面には青貝が蒔かれ、清らかに、冷たくもさらさらとした水のきらめきを表し、その上には水の流るるを表す様子が複数の線で表現され、タイトルの「潺潺」という美しい水の部分をイメージさせます。また大きく配されている水芭蕉は大きいという強めの印象よりも、水の流れとは対照的に優しく池の水中になじむように群生する様子が表現されています。氏が目にした水芭蕉の蔭に見えた椿は朱漆を使って描かれたところに金蒔絵で表現され、蔭ながらもとても印象に残る仕上がりとなっています。

作者の小松芳光は明治三十五年、金沢市に生まれました。東京美術学校聴講生後に植松包美に師事し、昭和二年第八回帝展に初入選、以後入選を果たします。新文展にも出品し、十三年第二回新文展特選を受賞。戦後は日展を舞台に意欲的に活躍し、二十一年特選、四十三年文部大臣賞を受賞。氏のモダンなデザイン感覚と加飾による独創的な意匠作品は漆芸界に新風を吹き込みました。また、同二十三年より金沢美術工芸大学教授となり四十五年に退官されるまで学生の指導にあたりました。

本作品は第5展示室で展示中です。是非ご覧ください。

次回の展覧会

前田育徳会
尊経閣文庫分館

第2展示室

花鳥画の世界 I
—雪舟筆《四季花鳥図》を中心に—

古美術優品選

会期:3月29日(火)～4月18日(月)

1F企画展示室(7・8・9展示室)
2Fコレクション展示室(3・4・5・6展示室)

第78回 現代美術展—洋画・工芸・写真—

会期:4月1日(金)～4月18日(月)

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

3月7日は第1月曜日より

コレクション展示室無料の日

3月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00 年中無休

3月の休館日は
25日(金)～28日(月)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索石川県立美術館だより
第461号(毎月発行)
2022年3月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。